

蓮華上の梵天

(倫敦、ビクトリア・アルバート博物館所藏)

無限 (Amanta) を象徴する大蛇に凭れる毘紐笈 (Visnu) が世界を創造せんとした時、その臍より蓮華を出だし、その蓮華の上に創造神梵天 (Brahman) が生まれたのである。毘紐笈の足を撫でてゐるのはその好配吉祥天女 (Laksmi) である。この群像は粘土で出来てゐて、それに色彩を施したものである。

製作時代は十九世紀後半で、印度ラツクノー (Lucknow) 市の所産である。

(前田聽瑞)

